

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73002	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	体の仕組みと働きⅡ (骨格系・筋系、消化器系、泌尿器系、恒常性の維持、生殖器系) (Anatomy and PhysiologyⅡ)				
担当教員名	野溝 明子				
授業の概要及び到達目標					
<概要> 「体の仕組みと働きⅠ」の続編である。身体の運動に必要な「骨組織と筋組織」、外界からの情報を受け取り、判断するための「神経系」、体内の不要分を排出させる「腎・泌尿器系」、体内の恒常性を維持するための「自律神経系」や「内分泌系」、子孫を残すために必要な「生殖器系」について扱う。 <到達目標> 「体の仕組みと働きⅠ」に引き続き、今後看護学を学んでいく上で必要となる人体に関する知識を得ることと、人体を対象とする専門職者として人体に興味・関心を持ち自ら学習する姿勢が身につくこと。					
準 備 学 習 等					
<講義の予習> 次回の講義内容をシラバス次ページ「授業計画」を見て把握し、配布資料や購入した図書の該当範囲に目を通すことで、次回の講義でどのような説明がなされるのか、次回の講義でどのようなことに注意して聴けばよいのかを確認して講義に臨めるように準備する。 <講義の復習> 講義中配布資料に書き込んだ事項を整理する。さらに、購入した図書（講義開始後に指示します）を用いて、受講した個所を読み、講義内容の理解を深めるようにする。講義内容や配布資料、参考図書で理解できなかった部分や疑問に思った部分は、放置せず、質問に来るなどして疑問を解決するように努める。					
成績評価の方法	定期試験 100%				
テキスト	講義時に配布する資料 坂井建雄ほか著,「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」第10版, 医学書院, 2018				

参考図書	・竹内修二著,「読んでわかる解剖生理学テキスト」,医学教育出版社,2014 ・竹内修二著,「解いてわかる解剖生理学テキスト」,医学教育出版社,2014 ・坂井建雄ほか著,「ぜんぶわかる人体解剖図」,成美堂出版,2010 ・高松研ほか監修,「NEW 生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理」第2版,医学映像教育センター,2009
備考	前期と同様です。配布レジュメに沿って、購入したテキストを参考にしながら予習と復習をしてください。質問がある場合は、講義後速やかに聞きに来て頂けると理解度が高くなると思います。メールでも受け付けます。同時期に開講される「基礎看護援助技術Ⅰ」を学ぶ上で必要となる解剖生理学的な知識を確認しながら、双方の講義・演習をリンクさせて学習することも念頭に置いて学習してください。 定期試験の前に練習問題を配付しますので、必ず自分で解くようにしてください。
授 業 計 画	
〔前期：体の仕組みと働きⅠより続きます〕 【骨格系・筋系】 第1回 骨組織と筋組織の特徴 第2回 骨と関節 第3回 骨格筋と関節の運動 【消化器系】 第4回 消化器系の概略 消化管の基本構造 咀嚼と嚥下（口腔・咽頭・食道） 第5回 栄養分を消化・吸収するしくみ 第6回 消化できなかったものを排泄する仕組み 第7回 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能 第8回 血糖の調節と栄養素の代謝 【泌尿器系】 第9回 腎臓のしくみとはたらき 第10回 尿路のしくみと排尿の機序 第11回 体液の調節 【恒常性の維持】 第12回 自律神経系のはたらき 第13回 内分泌器官のしくみとホルモン 【生殖器系】 第14回 生殖器のしくみ 第15回 人体の発生 定期試験 ※授業の進捗度や他科目の進度などにより変更する場合もある	